

国際協力関連

1. 今年度の活動概要

2015 年は発展的に海外医療協力のため頻繁に海外に渡航した。国際協力部門に着任の 4 月以降、ネパールへは 6 月、8 月、11 月の 3 回渡航し、独自活動としては 7 月にモザンビークでアイキャンプを行った。以下、活動の要点を記載する。

ネパール 6 月 トリブバン大学交流支援及び JICA プロジェクト会議(自費研修)

- 6 月 8 日 (月) 夕方、徳島から関空に移動。
- 6 月 9 日 (火) 関空～バンコク～カトマンズ。
到着後 JICA プロジェクトに関して意見交換。
- 6 月 10 日 (水) 午前、JICA 草の根プロジェクト会議。午後、JICA ネパール事務所訪問。
- 6 月 11 日 (木) 午前、トリブバン大学附属病院で診療。
午後、JICA 草の根プロジェクト会議。
夕方、駐ネパール日本大使と意見交換。
- 6 月 12 日 (金) 午前、ネパール眼科病院視察訪問。JICA 草の根プロジェクト会議。
午後、JICA ネパール事務所訪問。
- 6 月 13 日 (土) 帰国の途に。
- 6 月 14 日 (日) 帰国。

モザンビーク眼科医療支援プロジェクト (独自プロジェクト)

- 7 月 14 日 (火) 出国、関空～ドーハ (カタール) ～ダルエスサラーム (タンザニア)
- 7 月 15 日 (水) ダルエスサラーム～ペンバ (モザンビーク)
- 7 月 16 日 (木) ペンバにて患者診察および手術場を設営。ペンバ泊
- 7 月 17 日 (金) 74 人の白内障手術施行。
- 7 月 18 日 (土) 術後回診、66 人の白内障手術施行。
- 7 月 19 日 (日) 術後回診、29 人の白内障手術施行 (合計 169 人の白内障手術施行)。
- 7 月 20 日 (月) 器材梱包。撤収。
- 7 月 21 日 (火) ペンバから首都マプトへ移動。日本大使公邸でアイキャンプ報告会。
- 7 月 22 日 (水) 帰国の途に。モザンビーク航空機遅延のためヨハネスブルグで 1 泊。
- 7 月 23 日 (木) ヨハネスブルグ～ドーハ～関空と乗り継ぎ、1 日遅れで帰国した。

ネパール 8 月 トリブバン大学交流支援、JICA プロジェクト会議及び科研採択課題現地活動(自費研修)

- 8 月 17 日 (月) 夕方、関空に移動し深夜便でネパールに飛びたった。

- 8月18日（火） バンコクで乗り継ぎカトマンズへ。
- 8月19日（水） 終日、JICA 草の根プロジェクト会議。
- 8月20日（木） 午前、トリブバン大学附属病院で診療。JICA プロジェクト全体会議。
- 8月21日（金） 午前、JICA 草の根プロジェクト会議。
午後、JICA ネパール事務所訪問。
夜、註ネパール日本大使公邸で JICA プロジェクト関係者夕食会。
- 8月22日（土） 午前、JICA 草の根プロジェクト会議。
午後、ネパールにおける多職種参加型の国際協力（科研採択課題）ミーティング参加・指導。
- 8月23日（日） 帰国の途に。
- 8月24日（月） 帰国。

ネパール 11月 トリブバン大学交流支援及び JICA プロジェクト会議(自費研修)

- 11月21日（土） 夕方、関空に移動し深夜便でネパールへ。
- 11月22日（日） バンコクで乗り継ぎカトマンズへ。
到着後 JICA 草の根プロジェクトに関して会議。
- 11月23日（月） 午前、JICA 草の根プロジェクト会議。
午後、空路ポカラへ移動。ポカラ泊。
- 11月24日（火） 午前、ヒマラヤ眼科病院訪問。JICA 草の根プロジェクト会議。
午後、空路カトマンズに移動。
- 11月25日（水） B.P.Eye Foundation 名誉会員就任式典で表彰される。
- 11月26日（木） 終日、JICA 草の根プロジェクト会議。
- 11月27日（金） 帰国の途に。
- 11月28日（土） 帰国。

2. 今年度の主な活動についての報告

JICA 草の根プロジェクト「ネパールにおける網膜疾患診療サービス強化プロジェクト」について

近年ネパールにおいても失明原因として糖尿病網膜症等の網膜疾患が問題となりつつある。しかし、網膜疾患に精通する眼科医は極めて少ない。現地の眼科医師等から要請があり、「網膜疾患診療サービス強化プロジェクト」を立案し事業提案書を JICA に申請するに至った。

2015 年 3 月、本プロジェクトは採択され、JICA と徳島大学の本契約に向けての手続きを開始した。カウンターパートである現地 NGO の B. P. Eye Foundation (BPEF) と協議を重ね、予算内容を再度綿密に検討した。その後、本プロジェクトに参加予定の眼科病院 (NGO) に事業内容を説明し、協力を要請した。BPEF と徳島大学は協定覚書 (MOU) 締

結に向けて協議し、2016 年 1 月に MOU を締結した。その後 BPEF はプロジェクト承認手続きを申請中である。現地政府機関である社会福祉協議会 (SWC) によるプロジェクト承認後に徳島大学と JICA が本契約を結び、プロジェクトはスタートする予定で、近々、SWC によりプロジェクトは承認される見通しである。(本プロジェクトの立案に関しては紀要論文に記載した)。



(2015 年 8 月の現地プロジェクト会議)

科研平成 27 年度基盤研究

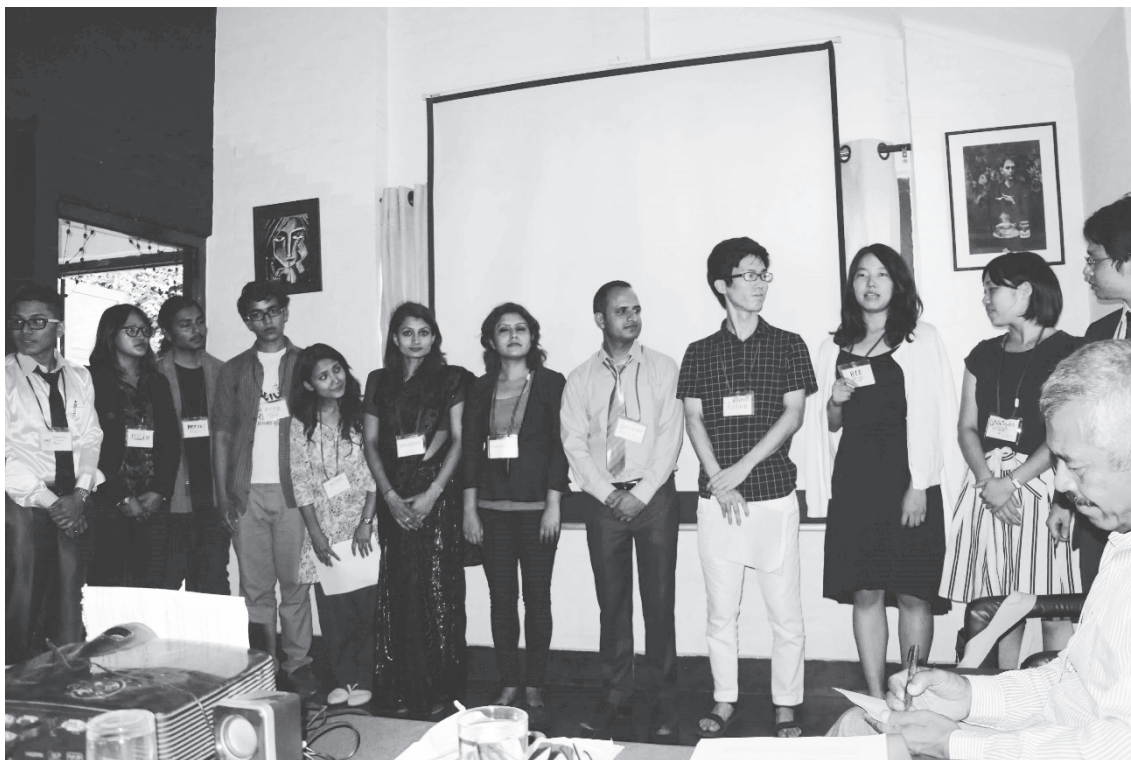
「国際保健分野における多職種連携をふまえた学生教育支援と国際協力モデルの開発」 について

研究班：杉野 美礼（代表）園田学園女子大学人間看護学部人間看護学科

田代麻里江	梅花女子大学看護学部
内藤 毅	徳島大学国際センター

主なプログラム内容

現地の NGO、医療教育機関と連携し、8 月にネパールの首都カトマンズ近郊の村落の学校において健康教育プログラムを行った。ネパールの学生と日本の学生が健康教育プログラムを準備し、協力しながら現場で活動を実践した。このプログラムを通して多文化理解を深め、多職種連携を経験し、協働力を養う事が出来た。プログラム最終日には現地関係者の前でプレゼンし、活発な意見交換を行った。このプログラムでは、国際保健分野で現地の人々と協働して問題解決に取り組み、地域の人々を主体とした持続可能な発展に貢献できる人材育成を目指している。将来彼らがリーダーシップを発揮して国際協力を実践してくれることを期待している。



(プログラム最終の成果発表会場にて)

モザンビーク眼科医療支援プロジェクト（独自プロジェクト）

2008 年 4 月、アフリカ眼科医療を支援する会、Association for Ophtalmic support in Africa (AOSA, <http://aosa-eye.org>) を独自に設立し、モザンビーク共和国で、2008 年から毎年、眼科医療活動（アイキャンプ）を行い、現在までに 1,000 人以上の失明患者の白内障手術を行った。

2015 年の活動では 7 月にモザンビーク北部の Cabo Delgado 州 Pemba でアイキャンプを行い、169 人の失明患者の白内障手術を施行した。アイキャンプにはモザンビーク人眼科医師を招待し、技術指導を行った。今後さらに現地保健省と協議しながら発展的に眼科医療支援プロジェクトを行う計画である。



(2015 年 7 月、アイキャンプ終了時の記念撮影)